

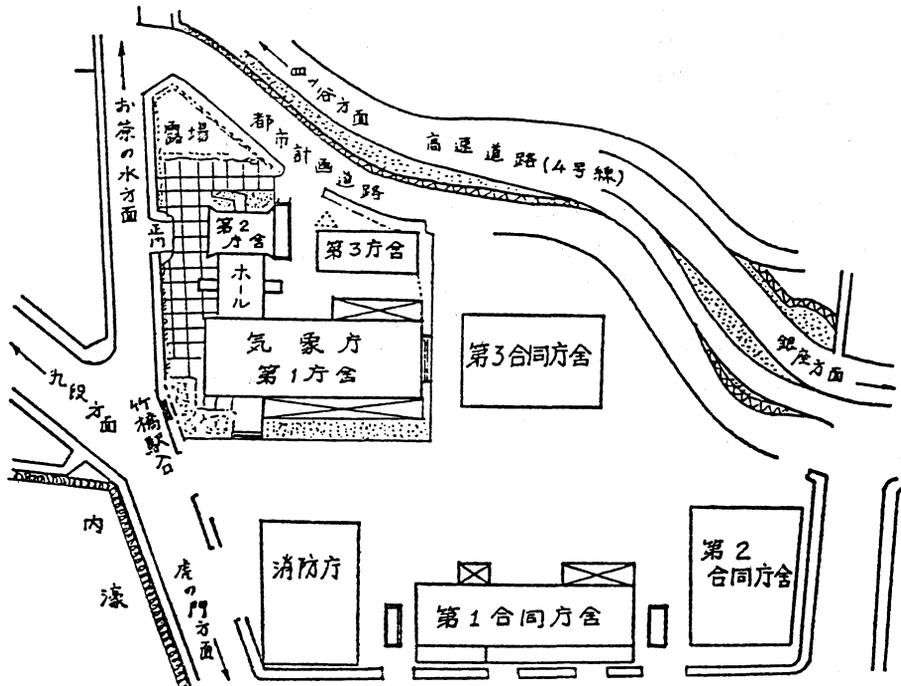
日本気象学会 昭和61年度春季大会

会期：昭和61年5月21日（水），22日（木），23日（金）
会場：気象庁（千代田区大手町 1-3-4）

目次

会場案内	169
大会行事予定表	170
総会次第	170
研究発表内容一覧表	171
シンポジウム内容	172
研究発表題目	173~180

会場案内図



(道順) 地下鉄東西線竹橋駅下車がもっとも便利です。

大会行事予定

1. 会場：気象庁（TEL. (03)-212-8341 内線 436）
 第1会場（講堂，2階）
 第2会場（総務部第1会議室，5階）
 第3会場（東京管区気象台会議室，8階）
2. 会期：5月21日（水），22日（木），23日（金）
3. 行事

行事		
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月21日（水）09：00～12：30 13：30～17：30
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月22日（木）09：00～12：00
総会	（第1会場）	13：00～14：00
記念講演およびシンポジウム	（第1会場）	14：00～17：30
懇親会	（竹橋会館，11階，孔雀の間）	18：00～
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月23日（金）09：00～12：30 13：30～17：30

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和60年度事業経過報告
7. 昭和60年度会計決算報告
8. 昭和60年度会計監査報告
9. 昭和61年度事業計画案・予算案の審議
10. その他
11. 閉会の辞

昭和61年度春季大会

(): 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
5月21日 (水)	09:00~ 12:30	雲物理・積雲対流 (I) (101~115) —田中豊顕—	局地循環 (I) (201~215) —河村 武—	大気大循環 (301~315) —山崎孝治—
	13:30~ 17:30	雲物理・積雲対流 (II) (116~132) —榊原 均—	局地循環 (II) (216~222) —近藤裕昭— エクマン境界層 (223~230) —佐藤 威—	力学 (316~328) —山中大守— 中層大気 (329~335) —林 祥介—
5月22日 (木)	09:00~ 12:00	中小・総観規模現象 (I) (133~145) —中村晃三—	大気汚染 (231~241) —鶴田治雄—	測器・応用気象 (336~347) —青柳二郎—
	13:00~ 14:00 14:00~ 17:30	総会 記念講演およびシンポジウム	第1会場	
5月23日 (金)	09:00~ 12:30	中小・総観規模現象 (II) (146~159) —瀬上哲秀—	接地境界層 (242~254) —伊藤昭三—	エアロゾル (348~358) —藤原玄夫— 放射 (I) (359~363) —山内豊太郎—
	13:30~ 17:30	熱帯・台風 (160~176) —近藤洋輝—	気候 (255~273) —酒井重典—	放射 (II) (364~371) —山内豊太郎— 大気化学 (372~381) —井上久幸—

注) 大会参加費 会員 1,000 円, 学生会員 500 円, 一般 1,500 円

講演発表者へのお知らせ

1. 東京大会では第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分程度です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウンドに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

記念講演およびシンポジウム「熱帯の大気と海洋」

1. 日 時 大会第2日（5月22日）
2. 会 場 第1会場（講堂：2階）
3. 座 長 松野太郎（東京大学）
4. 話題提供者

村上 勝人（気象研究所）：熱帯大気の季節内変動（学会賞記念講演）
 安成 哲三（筑波大学）：ENSO の全球的様相（学会賞記念講演）
 村上多喜雄（ハワイ大学）：南北半球のモンスーンの遷移（藤原賞記念講演）
 河原 幹雄（気象庁）：季節内変動のモニタリング
 山形 俊男（九州大学）：ENSO モデル研究の最近の発展
 林 祥介（東京大学）：30～60日周期に関する数値実験
 住 明正（東京大学）：TOGA 計画について

* 今回は学会賞・藤原賞の受賞者の研究内容が大会事務局の考えていたシンポジウムの内容に近いものでしたので、受賞記念講演を含める形でシンポジウムを企画しました。（大会事務局）

研究会のお知らせ

大会前日に下記の研究会が開催されます。興味のある方は御自由に参加下さい。

1. 梅雨に関する研究会

日 時 5月20日（火） 18:00～20:00
 場 所 東大理学部3号館326号室（地球物理大講義室）
 テーマ 「梅雨はどこまで分かったか、これからの問題点は？」
 話題提供 (1) 中村 一（気象庁）：大規模場としてみた梅雨
 (2) 二宮洗三（気象庁）：中小規模現象と梅雨前線
 （連絡先：中村 一，気象庁・数値予報）

2. 南極の気象—第5回会合

日 時 5月20日（火） 16:00～19:00
 場 所 気象庁・総務部第一会議室，5階
 テーマ 「対流圏微量成分研究と南極」
 話題提供 (1) 山崎孝治（気象研究所）：大気大循環から見た南極対流圏への物質輸送
 (2) 巻出義紘（東京大学）：大気中のハロカーボンとメタンの分布と変動
 (3) 青木周司（極地研究所）：大気中における二酸化炭素の分布と変動
 (4) 小川利紘（東京大学）：対流圏微量成分研究の現状と将来展望
 （連絡先：伊藤朋之，気象研究所）

研究発表題目

大会第1日(5月21日) 9時00分~12時30分

(*印は発表者)

第1会場 雲物理・積雲対流(I)

座長 田中豊顕

101. *川上 周・佐藤道子・榎田武彦(東理大・理工):
-15°C, 30 Torr の空気中で成長する氷晶の界面
カイネティクスと体積拡散の抵抗
102. *横山悦郎・黒田登志雄(北大・低温研):氷の気
相成長の理論一拡散場と表面カイネティクスを
通じた底面とプリズム面の相互作用一
103. *清 忠師・鈴木孝幸・榎田武彦(東理大・理工):
低圧空気中で成長する多面体氷晶の晶癖変化
104. 高橋忠司・松丸真智子(埼玉大・教育):低温領
域における多結晶凍結微水滴の成長
105. *佐藤 昇・谷口 恭・菊地勝弘(北大・理):低
温領域での雪結晶の成長条件
106. *高橋庸哉・福田矩彦(ユタ大学):雪結晶の成長
実験一高雲水量の場合一
107. 菊地勝弘・上田 博(北大・理):十八花の雪の
結晶について
108. *高橋庸哉・福田矩彦(ユタ大学):霰の embryo
について
109. *小西啓之(大阪教育大)・遠藤辰雄(北大・低温
研):一降雪間の降雪粒子の粒径と落下速度の変
化(その2)
110. 遠藤辰雄(北大・低温研)・高橋庸哉(札幌市青
少年科学館)・若浜五郎(北大・低温研):降雪エ
コーの 16 m/m シネによる運動学的観察
111. 遠藤辰雄(北大・低温研)・小西啓之(大阪教育
大)・若浜五郎(北大・低温研):人工降雪野外実
験(その2)
112. 小林利章・菊地勝弘・岩波 越(北大・理)・疋
田尚志・辻村 啓(北大・環境):降水のタイプ
と雨滴粒度分布の関係について
113. 横山辰夫(名大・水圏研):融解層付近における
降水粒子の粒径分布変化のパラメタライズに関す
る考察
114. 田中豊顕・成瀬 弘・小林隆久(気研・応用):

放射霧の生成・消滅過程の観測

115. 沢井哲滋・白木正規(気研・予報)・浅野正二(気
研・高物):移流霧の鉛直1次元モデル(その5)
—Subgridscale の凝結とまとめ

第2会場 局地循環(I)

座長 河村 武

201. 大畑哲夫・高原浩志・大野宏之・樋口敬二(名大・
水圏研):積雪の存在する沿岸部での局地循環
202. *松本 淳(東大・地理)・岩崎一孝(北大・教養)・
宇田川 満・伊藤政志・早福正孝・朝来野国彦(都
環境科学研):南関東における夏季の海風侵入過程
203. *大和田道雄・大西友治(愛知教育大・地理):伊
勢湾・三河湾岸地域の風の地域特性(1)
204. 瓜生道也・守田 治・宮原三郎(九大・理)・角
田三郎・野中善政(宮崎大・教)・阿部信男・楠
田信(大分高専)・大河内康正*(八代高専):八
代における局地風の立体観測
205. 佐橋 謙(岡山大・教育):海風の収斂線の構造
206. *栗田秀實(長野県衛公研)・植田洋匡(国立公害
研):沿岸地域から内陸の山岳地域への大気汚染
物質の輸送および変質過程
207. *光本茂記・植田洋匡(国立公害研)・栗田秀實・
薩摩林光(長野県衛公研):沿岸域から内陸地域
にかけての汚染物質輸送過程一海風前線の進行と
汚染物質濃度分布の変化一
208. 中根英昭・笹野泰弘(国立公害研):レーザーレ
ーダーによる海風前線立体構造の観測
209. *鈴木力英・河村 武(筑波大・地球科学):夏型
気圧配置時の中部日本における地上風系の特徴
210. 田中正昭*・枝川尚資(京大・防災研):佐久盆地
の局地風循環
211. 渡辺 明(福島大・教育):湖陸風循環の鉛直構
造について
212. *三上正男・白崎航一・北出寿江・小林隆久(気
研・応用):山地斜面風の観測(Ⅲ)
213. 佐藤 威・近藤純正(東北大・理):斜面・谷の

夜間冷却と冷気流の相互作用 (1)

214. 佐藤 威 (東北大・理)・森 洋介(宮城教育大):
山地で囲まれた沿岸地方で観測された冷気層 (2)
215. 近藤純正・大草直子 (東北大・理): 盆地の地形
と夜間冷却量および局地高気圧の強さとの関係

第3会場 大気大循環

座長 山崎 孝治

301. 渡部文雄 (気象庁・予報): 長周期のノーマルモ
ードロスビー波
302. *露木 義 (気象庁・長期予報)・岸保勘三郎: 全
球循環場の季節内変動の球面調和解析
303. 増田耕一 (東大・理): 全球の熱源分布とその季
節変化—FGGE データの解析—
304. 金谷年展 (東北大・地理): 夏季における異なっ
た天候レジームと定常波の伝播について
305. 佐藤公喜 (愛知県公害調査センター, 名大・水圏
研): 等温位置データ解析法の試作
306. 浜田忠昭・柏木啓一 (気象庁・数値予報): 衛星
風 (SATOB) の全球解析予報サイクルへの影響

307. *北出武夫・柳野 健 (気象庁・数値予報): 気象
庁北半球予報モデルにおける予報改善の解析
308. *中村 一・長谷川直之 (気象庁・数値予報):
JMA スペクトルモデルの地表水分の取扱いが梅
雨期15日予報に与える影響
309. 隈 健一 (気象庁・数値予報): 気象庁全球モデ
ルの改良について
310. *多田一正・岩崎俊樹 (気象庁・数値予報): JMA
モデルの系統的誤差とその改良
311. *岩崎俊樹・多田一正 (気象庁・数値予報): 予報
モデルにおける内部重力波の Parameterization I
312. *露木 義・金光正郎 (気象庁・数値予報): 帯状
平均場の修正による1カ月予報実験
313. 谷貝 勇 (気研・予報): 雲と放射が中期予報に
与える効果について
314. *鬼頭昭雄・時岡達志 (気研・予報): 延長予報に
対するモデルの鉛直解像度の効果
315. 岩嶋樹也・山元龍三郎 (京大・理): 低次順圧時
間—空間スペクトルモデルの周期外力応答特性

大会第1日 (5月21日) 13時30分~17時30分

第1会場 雲物理・積雲対流 (II)

座長 榊原 均

116. 鈴木和史 (気象衛星センター): 暖気移流時に現
われるオープンセル
117. *加藤聖治・播磨屋敏生 (北大・理): セル群の形
成と移動
118. *棚橋修一・武田喬男 (名大・水圏研): 新しい対
流セルの形成への鉛直シアの影響—3次元数値
実験—
119. 堀端康善 (榊東芝・システム・ソフトウェア技術
推進部): 地形情報を取り込んだ3次元雲モデル
(2)—差分スキームの線形安定性—
120. 堀端康善 (榊東芝・システム・ソフトウェア技術
推進部): 地形情報を取り込んだ3次元雲モデル
(3)—陽解法, 半陰解法, 完全陰解法—
121. *猪川元興・榊原 均・柳沢善次・石原正仁 (気
研): 線状降雪雲の2次元数値実験と観測との比
較(その2) 雲物理過程のパラメトリゼーション
を変化させた場合の比較感度実験
122. *藤吉康志・坪木和久・若濱五郎 (北大・低温研):
積丹半島に沿ったバンド状エコーの形成機構

123. *坪木和久・藤吉康志・遠藤辰雄・若濱五郎 (北
大・低温研): 上陸後急激に衰弱する降雪エコー
について
124. 八木鶴平・真木雅之 (国立防災センター, 筑波)・
中村 勉・中村秀臣・阿部 修・沼野夏生・佐藤
篤司 (同, 新庄): 盆地降雪のレーダー観測Ⅲ—
新庄盆地の降雪分布(その2)—
125. 真木雅之・八木鶴平 (国立防災センター・筑波):
盆地降雪のレーダー観測Ⅳ—鉛直構造の特徴(そ
の2)—
126. *岩波 越・菊地勝弘・谷口 恭・加藤聖治 (北
大・理): 北海道南西部オロフレ山系南東斜面の
降雨特性
127. *劉 国勝・武田喬男 (名大・水圏研)・和田 誠
(国立極地研): 層状雲のマイクロ波放射計とミリ
波レーダーによる同時観測
128. *堀口光章・武田喬男 (名大・水圏研): 層状雲の
ドップラーレーダによる観測
129. *矢野順一 (京大・理)・竹内義明 (気象衛星セン
ター): 雲の水平パターンのフラクタル解析
130. *竹内義明 (気象衛星センター)・矢野順一 (京大・

理)：雲の水平パターンフラクタル構造—雲分類の立場から—

131. 遠峰菊郎・道本充一郎・阿部成雄 (防大)：レーダーによる小松周辺の冬季雷の研究
132. *北川信一郎 (東京家政大)・大橋正次郎 (東京病院)・石川友衛 (日大・医学部)：落雷事故調査による人体への落雷の研究

第2会場 局地循環 (II)

座長 近藤裕昭

216. 遠峰菊郎 (防大)：critical level を伴う山越気流の特徴
217. 新野 宏 (気研・物理)：複雑地形を伴う局地循環に関する理論的考察 (その1)
218. *角田道生・林 隆 (原研)：筑波山を中心とした拡散実験 (II)
219. 林 隆・角田道生 (原研)・村治能孝 (国際気象海洋)・高橋佳昭 (アジア航測)：航空機による筑波山周辺の風の測定
220. *山本 普・蒲生 稔・林 正康・横山長之・近藤裕昭・吉門 洋・北林興二 (公害資源研)：飛行機による局地風系の立体測定
221. 劉 発華・河村 武 (筑波大・地球科学)：南関東における海陸風の3次元構造—秋の事例解析
222. 吉門 洋 (公害資源研)：関東平野の冬季の東風について (II)

エクマン境界層

座長 佐藤 威

223. 大河内康正 (八代高専)：大気境界層内における風の日変化—一次元数値計算モデル
224. 塚本 修 (岡山大・教養)：大気境界層における乱流収支方程式
225. 蒲生 稔 (公害資源研)：関東平野の混合層
226. 藤部文昭 (新東京航空地台)：成田空港における積雲の雲底高度と地上空気の持ち上げ凝結高度との差
227. 中国山地の霧研究グループ (広島女大, 広島地台, 広島県環境センター)：中国山地の霧
228. *桑形恒男・萩野谷成徳・近藤純正 (東北大・理)：下層大気不安定化にともなう突風状強風予知のための山頂風の利用
229. *文字信貴 (京大・防災研)・小元敬男 (大阪府大・農)：積乱雲の下降流に伴う突風の観測 (I)
230. 赤井幸夫・朝倉一雄・西宮 昌 (電力中研)：ド

ップラー音波レーダによる上層の風および温度の乱れ観測

第3会場 力学

座長 山中 大学

316. 阿部克也 (高層気象台)：水平風の地衡風による表現
317. 矢野順一 (京大・理)：木星型大気の力学についてのいくつかのコメント
318. *小出 孝 (気研)・R. Sadourny (LMD, Paris)：発散性2次元乱流の数値実験
319. 小出 孝 (気研)・R. Sadourny (LMD, Paris)：発散性2次元乱流の統計力学的平衡解
320. *石原 洋・松田佳久 (気大)：傾圧波と基本場の相互作用の理論的研究
321. 新野 宏 (気研・物理)：順圧シア流中の定常ロスビー波 (その1)
322. *城岡竜一・松田佳久 (気大)：超長波の傾圧不安定に及ぼす効果について
323. 向川 均 (京大・理)：傾圧2層モデルにおける強制ロスビー波の線型不安定性
324. 米谷 慎 (北大・工)：定常波と自由波の非線形共鳴相互作用について
325. 三村和男 (京大・理)：波動—平均流相互作用理論の合理的な記述
326. 高橋正明 (九大・理)：鉛直及び東西方向に伝播する内部重力波束に伴う2次流れについて
327. 金久博忠 (気大)：定常解分岐に於ける特異点の型と解の対称性
328. 金久博忠・松田佳久 (気大)：流体现象に於ける特異点の分類と対称性の低下について

中層大気

座長 林 祥介

329. 村岡良和 (兵庫医大・物理)：プラネタリー波動による中層大気温度構造の変化
330. 高橋正明 (九大・理)：準2年振動の2次元モデル
331. 吉澤宣之 (名大・水圏研)：1次元 QBO モデルにおけるスケールに依存した放射冷却の効果
332. 山中大学・田中 浩・吉澤宣之 (名大・水圏研)・佐藤 亨 (京大・超高層)：MU レーダ1週間連続観測資料の解析：I. 下部成層圏の準慣性重力波
333. 山中大学 (名大・水圏研)：MU レーダ1週間連続観測資料の解析：II. 上部対流圏の鉛直流変動

334. 馬目 薫・松野太郎(東大・理): MU レーダーを用いた対流圏・下部成層圏の風の微細構造の観測

335. 二木 徹・*廣田 勇(京大・理): MU レーダーによって観測された下部成層圏の慣性重力波

大会第2日(5月22日) 9時00分~12時00分

第1会場 中小規模・総観規模現象(I)

座長 中村 晃三

133. 須田芳彦(都立大・地理): 冬季, 日本海低気圧通過に伴う降水について一暖域降水と季節風型降水一
134. 永田 雅(気研・予報): 日本海側沿岸部の大雪と高層風(秋田・輪島・米子)の関係について
135. 吉住禎夫・永田 雅(気研・予報): 収束雲の変動とメソ α 規模じょう乱
136. メソ気象調査グループ(気象庁・海洋気象): 冬季日本海における「帯状の雲」のメソ構造一啓風丸の特別観測の解析一
137. 宮本正明・吉川榮一(東亜航空): 日本海の渦動行列と日本海中部高気圧
138. *遠藤辰雄(北大・低温研)・穂積邦彦(斜里高校)・元木敏博(気象衛星センター): 航空機による日本海上の降雪雲の観測
139. *小林文明・菊地勝弘(北大・理)・元木敏博(気象衛星センター): 北海道西岸に発生する帯状収束雲の形成過程について
140. 斎藤 昭(宮崎大): 宮崎平野におけるたつ巻の研究一たつ巻低気圧の解析一
141. 二宮洸三(気象庁・数値予報)・秋山孝子(気研・予報): 豪雨を伴う cloud cluster 群の中規模構造と時間変化
142. 秋山孝子(気研・予報): 梅雨前線活動の周期的変動とじょう乱 I. TBB 分布の時間空間変動
143. 武田喬男・*東 善広(名大・水圏研): NOAA 雲データによる中間規模雲群の消長の研究
144. 岩崎博之・武田喬男(名大・水圏研): 気象衛星 NOAA とレーダーを用いた中規模雲塊の構造と振舞に関する研究
145. *赤枝健治・武田喬男(名大・水圏研): 低気圧周辺に存在する雲頂温度の低い雲の特性

第2会場 大気汚染

座長 鶴田 治雄

231. 佐田幸一・西宮 昌・柿島伸次(電力中研): 不安定温度成層中の排ガス拡散に関する風洞実験(1)

232. 加藤真規子(気研・物理): 温度成層中の乱流拡散実験(風洞実験)(II)
233. 加藤真規子(気研・物理): 野外拡散実験と風洞実験の整合に関する1つの試み
234. *大滝英治(岡山大・教養)・米谷俊彦(岡山大・農生研): 備讃瀬戸地域における大気中の二酸化炭素の濃度変化(3)一渋川と番の州での観測結果一
235. *藤田慎一・寺田信之・西宮 昌(電力中研): 瀬戸内地域における降水組成と酸性物質の沈着量
236. *林 正康・横山長之・蒲生 稔(公害資源研): エーロゾルの空間分布
237. 吉川友章・白崎航一・小林隆久・里村雄彦・田中豊頭・戸矢時義・広瀬 弘・北出寿江・栗田 進: 大気汚染物質の沿岸海上での物理的挙動について
238. *蒲生 稔・横山長之・北林興二(公害資源研): 混合層と汚染物質の時間高度変化
239. 内陸域における大気汚染の動態, 研究グループ研究代表者 浅井富雄(東大・海洋研): 内陸盆地における大気汚染の発現機構
240. 横山長之・林 正康・北林興二(公害資源研・鈴木基雄(気象協会): 大気拡散ポテンシャルの地域分布(3)
241. 藤田敏夫(気研・予報): 道路環境アセスメントにおける大気汚染予測の問題点

第3会場 測器

座長 青柳 二郎

336. *竹内延夫(国立公害研)・佐藤 健(東理大)・馬場浩司・桜井捷海(東大・教養)・上野敏行(千葉大・工)・石河直樹(明星電気): 可搬型ライダーによる夜間斜め視程観測と TRANSMISSOMETER 観測との比較
337. 旭 満・牧野行雄・広田道夫・佐々木 徹・村松久史(気研・高物): レーザー光励起による大気中 OH 基測定法について
338. 青柳二郎(気研・衛星): ドップラーレーダにおける大地クラッタ除去
339. 池田 弘・*青島 武・三宅行美(英弘精機): 新

型日照計

340. *河野幸男・浜守 一：水晶温度計の特定数および自熱誤差について
341. *松井哲司・徳永敬三郎・福原和美（アドバンスシステム特）・大滝英治（岡山大・教養）：炭酸ガス・水蒸気変動計の試作（Ⅱ）

応用気象

座長 青柳二郎

342. 田平 誠（愛知教育大）：大気中の長距離音波伝播に対する非線形効果の観測
343. *真鍋大覚（九大・工）・志賀正信：上空の湿度と

日射量

344. 元田欽也（技術士（応用理学））：霞ヶ浦の藻類濃度と気温との対応について
345. 榊原保志（目黒二中）：Cubic model による室温の数値実験
346. 真鍋大覚（九大・工）・志賀正信：震央の周囲に展開する乱気流
347. *徳野正己・刈川貞二・内田祐之（気象衛星センター）：NOAA AVHRR データによる VEGETATION INDEX の季節変動について（1）

大会第3日（5月23日） 9時00分～12時30分

第1会場 中小規模・総観規模現象（Ⅱ）

座長 瀬上哲秀

146. 田口彰一（東大・海洋研）：総観規模低気圧の統計的解析
147. 加藤内蔵進（鹿児島地台）・栗原泰子（筑波大・地球科学）：梅雨の中休み時の総観場の特徴（1979年6月中旬についての事例解析）
148. 大沢和裕（気象衛星センター）：中国の西部山岳地帯に発生する濃密上層雲域の事例解析
149. 武田喬男・*中井専人（名大・水圏研）：気象衛星の赤外雲頂温度と降水量との比較
150. *元木敏博・小佐野慎悟・鈴木和史（気象衛星センター）：MS データとエコー強度データから降水強度を推定する試み（Ⅰ）
151. *小佐野慎悟・元木敏博・鈴木和史（気象衛星センター）：MS データとエコー強度データから降水強度を推定する試み（Ⅱ）
152. 武田重夫・八木正允（気研・予報）：北陸地方の短時間降雪予測法について（続編）
153. 永田 雅（気研・予報）：日本海側の降雪の数値シミュレーションⅤ—雲水量の予報を含む非対流性凝結方式の微格子モデルへの適用—
154. *平 隆介・上野 充・工藤達也（気象庁・数値予報）：レーダー・アメダス合成雨量を用いた初期値化の実験
155. *高野 功・瀬上哲秀（気象庁・数値予報）・斎藤和雄（気象衛星センター）：高密度の衛星風データの局地モデルへの影響
156. 横山 博・瀬上哲秀（気象庁・数値予報）：局地モデル（VFM）における初期値鉛直内挿法の改

良

157. *斎藤 定・田中 浩（名大・水圏研）：対称傾圧不安定の数値実験—梅雨前線に伴うレインバンド生成メカニズムへの応用—
158. *平沢正信・吉住禎夫（気研・予報）：中緯度傾圧湿潤大気中の積雲群と大規模場の相互作用（数値実験）
159. 石島 英（琉大）：石垣島・西表島の下層水蒸気輸送に及ぼす地形効果

第2会場 接地境界層

座長 伊藤昭三

242. 林 泰一（京大・防災研）：強風時の風速変動のスペクトルの水平2次元分布について
243. 石田廣史（神船大）：中規模水平ロール状渦の接地境界層における影響—JASIN-1978 プイ観測—
244. *高原浩志・大畑哲夫・大野宏文・樋口敬二（名大・水圏研）：積雪域の境界付近における気層の冷却過程
245. 大野宏之・樋口敬二（名大・水圏研）：山岳斜面上の積雪域と裸地を吹走する山風谷風の気塊の熱的变化
246. 内藤玄一（国立防災センター）・宗山 敬・佐々木保徳（海洋センター）・青田昌秋（北大・低温研）：海氷上の大気乱流の観測（2）
247. 鵜野伊津志・若松伸司・植田洋匡（国立公害研）・高橋春夫・中村 晃（北大）：夜間の都市境界層の形成機構について
248. *平松 親・菊地勝弘（北大・環境研）：札幌市の大気環境—冬季の大気境界層の構造—
249. 酒井晴夫・*原田 朗（地磁気観測所）：筑波研究

学園都市の建設による気温の変化

250. 森 征洋 (香川大・教育): 風向・風速の平均と標準偏差の評価方法について (Ⅲ)
251. *堀 晃浩・伊藤昭三 (阪府大・工): 地形の変化に伴う流れについて (2)
252. 山田信夫 (日大・生産工): いくつかの二次の乱流クロージャー・モデルによるモーニン・オブコフの普遍関数の振る舞い
253. 松岡春樹: 蒸発あるときの接地気層でのエンタルピーフラックス表現の討論
254. 米谷俊彦 (岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について (21)

第3会場 エアロゾル

座長 藤原 玄 夫

348. *成瀬 弘・田中豊顕 (気研・応用): 放射霧の霧粒中に含まれた粒子について
349. *伍 培明・岡田菊夫・武田喬男 (名大・水圏研): 都市大気におけるエアロゾル粒径分布の特徴
350. 石坂 隆 (名大・水圏研)・L.F. Radke・P.V. Hobbs (ワシントン大学): Arctic Haze 中における巨大粒子の性状
351. 林田佐智子・飯倉善和・清水 浩・笹野泰弘・杉本伸夫・中根英昭・松井一郎・竹内延夫 (国立公害研)・桜井二三男 (東京電機特器): 国立公害研究所大型レーザーレーダーによる成層圏エアロゾル層の観測 (I)
352. 岩坂泰信・*荒木真一 (名大・水圏研): 成層圏エアロゾル量の季節変化 (Ⅱ) —その形状を探る— ライダー観測
353. 岩坂泰信・*今須良一 (名大・水圏研): ライダー

による成層圏エアロゾル層の偏光解消度 [Ⅱ] —空気分子による偏光解消度—

354. 岩坂泰信・*大和政彦・小野 晃・今須良一 (名大・水圏研): 散乱体の形と偏光解消度
355. *高村民雄 (防大・地学)・笹野泰弘 (国立公害研): 下層大気中でのエアロゾルの散乱パラメータの推定
356. *中島映至・田中正之・早坂忠裕 (東北大・理): 航空機による日射とエアロゾルの成層状態の観測
357. *秋吉英治・藤原玄夫・高橋正明 (九大・理): エアロゾルが増加した場合の赤外領域における大気の加熱率の計算
358. 広野求和 (九大): 火山エアロゾル低緯度急増加によるインド・モンスーン降雨減少

放 射 (I)

座長 山内 豊太郎

359. 中川清隆 (上越教育大学・自然系): 都市内部における大気混濁度の分布のサンホトメーターを用いた移動観測の試み
360. *塩原匡貴 (気研)・田中正之・中島映至 (東北大・理): 太陽放射観測に基づく南極エアロゾルの粒径分布
361. 田中正之・中島映至・*早坂忠裕 (東北大・理): 太陽放射フラックスの航空機観測によるエアロゾルの複素屈折率虚数部の推定
362. *浅野正二・塩原匡貴・忠鉢 繁・藤木明光 (気研・高層物理): エアロゾルの放射収支効果の航空機観測
363. 中川清隆 (上越教育大学・自然系): 地上から高度 100 m までの放射流束の直接測定

大会第3日 (5月23日) 13時30分~17時30分

第1会場 熱帯・台風

座長 近藤 洋 輝

160. 岡村博文 (気研・台風): 台風 8514 号の鉛直構造の特徴
161. 石島 英 (琉大): 台風場の地形によるみだれに関する数値実験
162. 阿部成雄 (防大): 台風の移動と平均風の鉛直シアー
163. 阿部成雄・田島 健 (防大): 台風の非対称性と蛇行運動
164. *田畑 明・榊原 均・石原正仁・柳沢善次・松

浦和夫・青柳二郎 (気研): 2 台のドップラーレーダーによる台風 8514 号の降雨帯の構造の解析

165. 木場博之・櫃間道夫 (気象衛星センター): 台風の気圧中心の東方に偏在する積乱雲の雲渦の解析 (序報)
166. 山崎信雄 (気研・台風): レーダーエコーと等価黒体温度の関係に及ぼす風の場の影響—T8514 のエコーバンドについて—
167. 井上豊志郎 (気研・台風): Split window データによる降水域推定
168. 山崎信雄・村上勝人 (気研・台風): 台風の発生・

- 発達期における大規模場の立体構造
169. 新田 勅 (気研): 日本南方海域の熱源変動と夏の天候
170. 宮崎保彦 (気象庁・長期予報): 7, 8月における日本の天候と熱帯の上層雲量分布
171. 栗原弘一・露木 義 (気象庁・長期予報): 夏期に日本付近で発達する亜熱帯高気圧の生成維持機構
172. 安成哲三 (筑波大・地球科学): 熱帯の成層圏, 対流圏および海面水温にみられる QBO のリンクの可能性について
173. 千葉 長 (気研・予報): SP・R10 モデルに再現された50日振動
174. 平沢尚彦 (筑波大・環境科学)・安成 哲三・河村武 (筑波大・地球科学): インドモンスーンの約40日周期変動とアジア大陸・太平洋域の大気循環
175. 中沢哲夫 (気研・台風): OLR にみる 30—60 日周期変動の平均的様相
176. 丸山健人・常岡好枝 (気研・予報): 30—50 日周期振動の年々変化 (シンガポール: 1961—1984)

第2会場 気 候

座長 酒 井 重 典

255. 田中正之・*大塚清敏 (東北大・理): 熱収支気候モデルによる気候敏感度の緯度一季節分布の評価
256. 時岡達志・山崎孝治・千葉 長 (気研・予報): MRI・GCM-I による長期予報実験例 (1983年初夏の事例)
257. 山崎孝治・時岡達志 (気研・予報): MRI・GCM-I による12年ランに見られる冬季日本付近のテレコネクション
258. *青木 孝・河原幹雄・山田真吾 (気象庁・長期予報): 500 mb 高度場における北太平洋西部の亜熱帯の夏と南半球の冬との関係
259. 池山雅美・武田喬男 (名大・水圏研): 北西太平洋域における雲量の変動と赤外放射量の変動
260. 山田真吾 (気象庁・長期予報): 全球海面水温と日本の気温との相関関係
261. 齋藤達也 (茨城県立日立工業高校): 樹木の年輪解析による古気候復元へのアプローチ (II)
262. 水越允治 (三重大・人文): 近畿地方中部における18世紀後半以降の梅雨の長期変動傾向
263. 篠田雅人 (東大・地理): 1968—73年と80年代前半のサヘルの干ばつの違い

264. *瀬古勝基・武田喬男 (名大・水圏研): 全球的に見た月降水量の長期変動
265. 村田昌彦 (筑波大・地球科学): 梅雨季の長期変動と周期性 (1)
266. 近藤純正 (東北大・理): 宮城県江の島の海面水温度に見られる気候ジャンプ
267. 小寺邦彦 (気研・高物): 太陽活動・火山噴火の異常気象発生に及ぼす影響
268. 正村史朗 (総合科学研): 「太陽活動のM法則」と「気象の120年周期」に基づく1986年か87年の冷害, 1988年の干ばつ, 1989年の冷害の連続発生の予報について
269. 小林典謙: 夏の高校野球と8月台風
270. 中西 朗 (新潟県・村松浜小): 瓢湖の白鳥最高羽数とハバロフスクの初冬寒気団 (2)
271. 小林 守 (筑波大): 気温の最適平年数年の地域性
272. *加藤史之・西宮 昌 (電力中研): 気象要素の季節代表性
273. 甲斐憲次 (気象庁・産業気象): 日本における地表風のスペクトル気候学 (2)

第3会場 放 射 (II)

座長 山 内 豊 太郎

364. 竹内義明 (気象衛星センター): 放射伝達問題における球面関数展開法の計算手順について
365. 藤木明光・忠鉢 繁 (気研)・村井潔三 (気大)・関根正幸 (気象庁): UV-B 領域紫外線の測定結果について
366. 牧野行雄・村松久史・塩原匡貴 (気研)・川口貞男・山内 恭 (極地研)・田中正之 (東北大・理)・小川利紘 (東大・理): 太陽光赤外分光観測による大気中微量成分全量の導出
367. 内山明博 (気象衛星センター): 透過関数の指数関数和による近似について
368. 青木忠生 (気研・高物): Line-by-Line 用データベース
369. 内山明博・藤村弘志・用具敏郎・久保田 効 (気象衛星センター): GMS からの海面水温の推定について
370. 土屋 巖 (国立公害研): ランドサット TM データを利用する地表温度算定式の検討
371. 佐藤正博 (環境数理研): 温度フィードバック効果を考慮した成層圏オゾン予測

大気化学

座長 井上久幸

372. 仲野 實・竹内利雄・大石祐司・杵山靖広(名大・空電研): 雷雨時における太陽散乱光 NO₂ 吸収の変化
373. *杉村行勇・G.I. Pearman (気研): 筑波における地表大気中の CO₂ と気温の日周変化について
374. 土器屋由紀子・別所進一(気研・地球化学): 気象観測用鉄塔を用いた降下物の化学成分に関する研究
375. *太田幸雄・村尾直人(北大・工)・佐々木康之(札幌市役所)・長瀬 徹(釧路市役所): 札幌における NO₂, SO₂ 及び NH₃ ガスの濃度分布の測定
376. *村尾直人・太田幸雄・浦末章雄・辻 英明(北大・工): 海塩粒子及び酸化カルシウム粒子と硝

酸ガスとの反応

377. *廣瀬勝己・青山道夫・杉村行勇・葛城幸雄(気研): 核実験に由来する人工放射性核種降下量の経年変化について・I 下部成層圏打上げの場合
378. *廣瀬勝己・青山道夫・杉村行勇・葛城幸雄(気研): 核実験などに由来する人工放射性核種降下量の経年変化について・II 上部成層圏打上げの場合
379. 岩坂泰信(名大・水圏研): 低温下における硫酸粒子の水和過程
380. 忠鉢 繁(気研)・梶原良一(高層気象台): 昭和基地における春先のオゾン全量の減少傾向
381. 川平浩二(京大・理): 低緯度 D 領域における大規模擾乱

第23期第16回常任理事会議事録

日時 昭和61年2月24日(月) 13:30~17:00

場所 気象庁海洋気象部会議室

出席者 山元, 花房, 土屋, 松本, 杉村, 田宮, 春日, 竹内, 吉野

議事

A. 報告事項

〔教育と普及〕

2月20日(木)に委員会を開催し, 昭和61年度の夏季大学について打ち合わせ, 次のとおり決定した。

期日: 7月28日から4日間

内容: 雨に関する話

〔国際学術交流〕

2月8日(土)委員会を開き, インドの長期予報百年記念セミナーに派遣する2名へ, 20万円ずつ計40万円の補助金を支出することとなった。

B. 審議事項

1. 昭和61年度予算案について

会計担当理事から原案が示され, 審議の結果一部修正のうえ了承された。

昭和61年度の機関誌の印刷業者は印刷請負入札の結

果にもとづき, 「天気」は三報社, 「気象集誌」は学術図書に決定した。

2. 昭和61年度日本気象学会賞および藤原賞候補者の推薦について

学会賞・藤原賞候補推薦委員会担当理事から理事長あてに候補者の推薦があった。規程にもとづいて受賞者決定のための全理事の投票を行う。

3. 国際学術交流について

(1) 中国気象学会への連絡文書について

原案が示され, 審議の結果文章を一部修正のうえ送付することにした。

(2) 国際学術交流基金への募金について(天気公示文)

原案が示され, 審議の結果文章の一部を修正し全理事の賛否を問うこととなった。

4. 風工学シンポジウムの分担金について

分担金は他の共催学会と同額にすることが承認された。

5. 会員の新規加入の承認について

個人会員中村誠ほか15名の新規加入が承認された。

編集後記: 今月号から, 「日々の衛星画像」というタイトルで, ひまわり3号の日々の赤外画像を1年分連載してゆくことになりました。

これによって「天気」購読者は, 年間を通じて大気大循環がどのように生起してゆくか, 雲の移り変わりか

ら, つぶさに見ることができるようになります。貴重な資料であり, 興味は尽きません。

これは理事会の御理解と御支援によって実現可能となった企画です。気象学会の普及と発展に役立つことを願うものであります。(K. Y)